

あすの KYOTO 地方創生フェスタに参加！！

11月3日、京都府植物園で行われた「あすの KYOTO 地方創生フェスタ」に参加し、来場者の方々に実行委員会の取り組みや被災地の今を知っていただくことができました。「あの日を忘れない」という想いを長く続けていけるのも、共に復興を願うほかの参加団体の方との交流があつてのことです。チャリティー（慈善）事業に賛同された「WATER CRESS」のデニム素材の小物をはじめ、宮城県気仙沼市でつくられた海苔、おつまみ昆布、ふりかけ等を売りました。また備蓄食品の紹介になればと思い、缶詰になったケーキを販売したところ沢山の方が関心の目で見てくれました。10月に起きた台風19号による被害に対して支援募金を行ったところ、**10,390円**集まりました。



あす KYO フェスタに参加し、支援募金・物販・展示を行うことができました。私たちの活動に興味を持って、道行く人から質問をいただきました。有意義な時間を得られただけでなく、たくさんの募金をしていただいたこともあわせて感謝します。（**高校3年委員長：勝浦**）

今年で4度目の参加ということもあり、私自身が成長し委員会であることが増えたので、よい経験になりました。他のブースの方との交流を今後活かしていこうと思いました。（**高校2年：立入**）

ブースの前で轍を配っていると、「どんな活動をしているの？」と多くの方に聞いていただけました。東北地方の郷土料理である「いも煮」も食べることもできました。隣のブースの方は「震災の記憶を風化させないことが大切だ」ともおっしゃっていました。（**高校2年：小川**）

隣のブースで参加されていた方々が話しかけてくれて、様々な取り組みをアドバイスと共に知ることができました。私たちの活動に興味を持ってくれる人が多くいて大変嬉しく思いました。（**高校2年：北岸**）

おしらせ

今回のイベントでは実行委員だった卒業生、上尾さんも様子を見に来てくださいました。現在は府立大学で防災に関する講義にも積極的に参加されており、さまざまな体験を教えてくださいました。そのうちの「**京の防災安心安全シンポジウム**」を紹介します。

☆ 日時：11月23日（祝）13時～17時

☆ 場所：京都府立大学 稲盛記念会館 1階103講義室 ※詳しくはHPを参照



台風19号被害を受けた丸森町へ届けました！！

10月12日から13日にかけて大きな被害を残した台風19号では、宮城県で19名、福島県で32名、先の台風15号について被害を受けた千葉県でもさらに11名の方が亡くなられました。

本校ではボランティア部と東日本大震災被災地応援実行委員会からの呼びかけで必要だと思われるものを募集し、被害の大きかった宮城県伊具郡丸森町の学校教育課へ送ることができました。



☆ 寄せられた支援物資（募金の5050円は郵送料金の一部に充てました）

- ・タオル152枚 ・雑巾77枚 ・軍手43双 ・マスク10枚 ・靴下50足
- ・靴下用カイロ5枚 ・カイロ186枚 ・ノート26冊 ・メモ帳6冊 ・付箋853個
- ・鉛筆419本 ・消しゴム27個 ・帽子3個

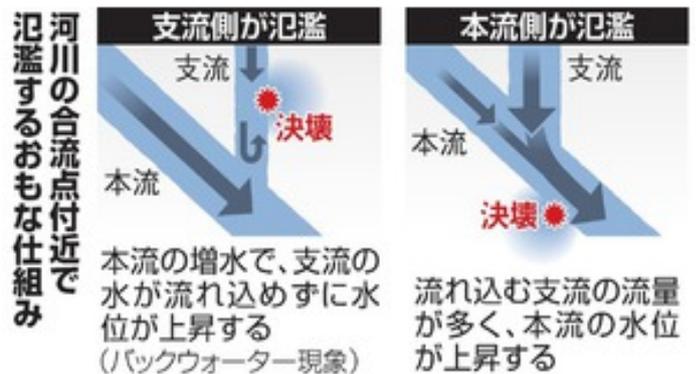
感謝

第2次支援活動については11月25日（月）から再開を予定しています。皆さまご協力をお願いします。

水害の知識：バックウォーター現象

今回の台風19号は豪雨被害として土砂崩れだけでなく、河川の水位限界を超えた降雨、堤防の決壊が多くの人命を奪いました。河川付近に避難勧告が出たとしても、どのように危険が襲ってくるか意識しなければ行動が遅れてしまうことを物語っています。新聞やテレビニュースでよく耳にされた「バックウォーター現象」を今回は紹介します。

台風19号の大雨で堤防が決壊した140ヶ所（71河川）のうち8割が支流と本流の合流地点から約1キロメートルの範囲内だったことが国土交通省の公開データを基にした朝日新聞のまとめでわかっています。



右の図のように、増水した本流の流れに支流の河川水位が上がり、行き場を失った水が溢れて決壊につながるという構造をバックウォーター現象とよんでいます。宮城県の丸森町では、支流の五福谷川や新川が氾濫し、市街地全体が浸水しました。昨年夏の西日本集中豪雨でも、岡山県倉敷市真備町が同じ現象で河川が氾濫して50名以上が犠牲となりました。支流だけでなく、水が流れ込む角度が狭くなれば水圧も高くなり、堤防の決壊に繋がりますと言われています。東日本に訪問した際、実行委員の中高生は都市型津波の説明をしてもらいましたが、災害の起こりやすい地形を学ぶことは防災意識と合わせてとても重要です。